

# ブレイデンスケール

患者氏名

評価者氏名

評価年月日

<b>知覚の認知</b> 圧迫による不快感に対して反応できる能力	<b>1. 全く知覚無し</b> 傷みに対する反応（うめく、避ける、つかむ等）なし。この反応は、意識レベルの低下や鎮静による。 あるいは、体のおおよそ全面にわたり痛覚の障害がある。	<b>2. 重度の障害あり</b> 傷みのみに反応する。不快感を伝えるときには、うめくことや身の置き場なく動くことしかできない。 あるいは、知覚障害があり体の1/2以上にわたり痛みや不快感の感じ方が完全ではない。	<b>3. 軽度の障害あり</b> 呼びかけに反応する。しかし、不快感や体位変換のニーズを伝えることが、いつもできるとは限らない。 あるいは、いくぶん知覚障害があり、四肢の1.2本において痛みや不快感の感じ方が完全ではない部位がある。	<b>4. 障害なし</b> 呼びかけに反応する。知覚欠損はなく、痛みや不快感を訴えることができる。					
<b>湿潤</b> 皮膚が湿潤にさらされる程度	<b>1. 常に湿っている</b> 皮膚は汗や尿などのために、ほとんどいつも湿っている。患者を移動したり、体位変換することに湿気が認められる。	<b>2. たいてい湿っている</b> 皮膚はいつもではないが、しばしば湿っている。各勤務時間中に少なくとも1回は寝衣寝具を交換しなければならない。	<b>3. 時々湿っている</b> 皮膚は時々湿っている。定期的な交換以外に、1日1回程度、寝衣寝具を追加して交換する必要がある。	<b>4. めったに湿っていない</b> 皮膚は通常乾燥している。定期的に寝衣寝具を交換すればよい。					
<b>活動性</b> 行動の範囲	<b>1. 臥床</b> 寝たきりの状態である。	<b>2. 座位可能</b> ほとんど、または全く歩けない。自分で体重を支えられなかったり、椅子や車椅子に座る時は、介助が必要であったりする。	<b>3. 時々歩行可能</b> 介助の有無にかかわらず日中時々歩くが、非常に短い距離に限られる。各勤務時間中にはほとんどの時間を床上で過ごす。	<b>4. 歩行可能</b> 起きている間は少なくとも1日2回は部屋の外を歩く。そして、少なくとも2時間に1回は室内を歩く。					
<b>可動性</b> 体位を変えたり整えたりできる能力	<b>1. 全く体動なし</b> 介助なしでは、体幹または四肢を少しも動かさない。	<b>2. 非常に限られる</b> 時々体幹または四肢を少し動かす。しかし、しばしば自力で動かしたり、または有効な（圧迫を除去するような）体動はしない。	<b>3. やや限られる</b> 少しの動きではあるが、しばしば自力で体幹または四肢を動かす。	<b>4. 自由に体動する</b> 介助なしで頻回にかつ適切な（体位を変えるような）体動をする					
<b>栄養状態</b> 普段の食事摂取状況	<b>1. 不良</b> 決して全量摂取しない。めったに出された食事の1/3以上を食べない。蛋白質・乳製品は1日2皿（カップ）分以下の摂取である。水分摂取が不足している。消化態栄養剤（半消化態、経腸栄養剤）の補充はない。 あるいは、絶食であったり、透明な流動食（お茶、ジュース等）奈良摂取したりする。または、末梢点滴を5日以上続けている。	<b>2. やや不良</b> めったに全量摂取しない。普段は出された食事の約1/2しか食べない。蛋白質・乳製品は1日3皿（カップ）分の摂取である。時々消化態栄養剤（半消化態、経腸栄養剤）を摂取することもある。 あるいは、流動食や経腸栄養を受けているが、その量は1日必要摂取量以下である。	<b>3. 良好</b> たいていは1日3回以上食事をし、1食につき半分以上は食べる。蛋白質・乳製品を1日4皿（カップ）分摂取する。時々食事を拒否することもあるが、勧めれば通常捕食する。 あるいは、栄養的におおよそ整った経管栄養や高カロリー輸液を受けている。	<b>4. 非常に良好</b> 毎食おおよそ食べる。通常は蛋白質・乳製品を1日4皿（カップ）分以上摂取する時々間食（おやつ）を食べる。捕食する必要はない。					
<b>摩擦とずれ</b>	<b>1. 問題あり</b> 移動のためには、中等度から最大限の介助を要する。シートでこすれずに体を動かすことは不可能である。しばしば床上や椅子の上でずり落ち、全面介助で何度も元の位置に戻すことが必要となる。痙攣、拘縮、振戦は持続的に摩擦を引き起こす。	<b>2. 潜在的に問題あり</b> 弱々しく動く。または最小限の介助が必要である。移動時皮膚は、ある程度シートや椅子、抑制帯、補助具等にこすれている可能性がある。たがいの時間は、椅子や床上で比較的良好な体位を保つことができる。	<b>3. 問題なし</b> 自力で椅子や床上を動き移動中十分に体を支える筋力を備えている。いつでも椅子や床上で良好な体位を保つことができる。						

\*Copyright : Braden and Rergstrom. 1988

訳：真田弘美（金沢大学医学部保健学科）/  
 大岡みち子（North West Community Hospital. IL. U.S.A.）

Total